

GA-P35C-DS3R/ GA-P35C-DS3/ GA-P35C-S3

LGA775ソケットマザーボード(Intel® Core™ プロセッサファミリー/Intel® Pentium® プロセッサファミリー/Intel® Celeron® プロセッサファミリー用)

ユーザーズマニュアル

改版 2001



* 製品のWEEE マーキングは、この製品をユーザーのその他の家庭廃棄物と共に廃棄してはならず、指定された電子・電気機器リサイクル用収集地点に持ち込む必要があることを示しています。



* WEEEマーキングは、欧州連合の加盟国にのみ適用されます。

目次

第1章	ハードウェアの取り付け	3
1-1	取り付け手順	3
1-2	製品の仕様	4
1-3	CPU および CPU クーラーの取り付け	7
1-3-1	CPU を取り付け	7
1-3-2	CPU クーラーを取り付ける	9
1-4	メモリの取り付け	10
1-4-1	デュアルチャンネルのメモリ設定	10
1-4-2	メモリの取り付け	11
1-5	拡張カードの取り付け	12
1-6	SATA ブラケットの取り付け	13
1-7	背面パネルの概要	14
1-8	内部コネクタ	16

** 本製品の使用に関する詳細は、ユーザーズマニュアルの英語版を参照してください。

第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電放電(ESD)の結果損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください：

- ・ 取り付ける前に、マザーボードの S/N シリアル番号ステッカまたはディーラーが提供する保証ステッカを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのシリアルステッカーは保証の確認に必要です。
- ・ マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて AC 電力を切ってください。
- ・ ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかりと接続されていることを確認してください。
- ・ マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- ・ マザーボード、CPU またはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電放電 (ESD) リストラップを着用するようにお勧めします。ESD リストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、金属物体に触れて静電気を取り除いてください。
- ・ マザーボードを取り付ける前に、これを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- ・ マザーボードから電源装置のケーブルを抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- ・ パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- ・ 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- ・ マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- ・ マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- ・ コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- ・ コンピュータシステムを高温環境で設置しないでください。
- ・ 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、怪我につながる危険があります。
- ・ 取り付けステップについて不明確な場合や、製品の使用に関して問題がある場合は、正規のコンピュータ技術者にお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

CPU	<ul style="list-style-type: none"> 以下のプロセッサをサポート:Intel® Core™ 2 Extreme プロセッサ/ Intel® Core™ 2 Quad プロセッサ/Intel® Core™ 2 Duo プロセッサ/ Intel® Pentium® プロセッサ Extreme Edition/Intel® Pentium® D プロセッサ/ Intel® Pentium® 4 プロセッサ Extreme Edition/Intel® Pentium® 4 プロセッサ/ Intel® Celeron® D プロセッサ (LGA 775 パッケージ) (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください)。 Intel® ハイパースレッディングテクノロジをサポート L2キャッシュはCPUで異なります
フロントサイドバス	<ul style="list-style-type: none"> 1333/1066/800 MHz FSB
チップセット	<ul style="list-style-type: none"> ノースブリッジ: Intel® P35 チップセット サウスブリッジ: Intel® ICH9R^① / ICH9^{②③}
メモリ	<p>DDR3:</p> <ul style="list-style-type: none"> 最大 4GB のシステムメモリをサポートする 1.5V DDR3 DIMM ソケット(x2) デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ DDR3 1333/1066/800 MHz メモリモジュールのサポート <p>DDR2:</p> <ul style="list-style-type: none"> 最大 8GB のシステムメモリをサポートする 1.8V DDR2 DIMM ソケット(x4)^(注1) デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ DDR2 1066/800/667 MHz メモリモジュールのサポート (注: 混合モード、DDR2 と DDR3 メモリモジュールを同時に装着することはできません。最新のメモリサポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください)。
オーディオ	<ul style="list-style-type: none"> Realtek ALC889A コーデック ハイディフィニションオーディオ 2/4/5.1/7.1チャンネル S/PDIF イン/アウトのサポート CD インのサポート
LAN	<ul style="list-style-type: none"> RTL 8111B チップ(10/100/1000 Mbit)
拡張スロット	<ul style="list-style-type: none"> PCI Express x16 スロット(x1) PCI Express x1 スロット(x3) PCI スロット(x3)
ストレージインターフェイス	<ul style="list-style-type: none"> サウスブリッジ: <ul style="list-style-type: none"> 最大 6 つの SATA 3Gb/s デバイスをサポートする SATA 3Gb/s コネクタ (SATAII0、SATAII1、SATAII2、SATAII3、SATAII4、SATAII5)^① 最大 4 つの SATA 3Gb/s デバイスをサポートする SATA 3Gb/s コネクタ (SATAII0、SATAII1、SATAII2、SATAII3)^{②③} (注2) SATA RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 10 をサポート^① iTE IT8718 チップ: <ul style="list-style-type: none"> 最大 1 つのフロッピーディスクドライブをサポートするフロッピーディスクドライバコネクタ (x1)

① GA-P35C-DS3R のみ。

② GA-P35C-DS3 のみ。

③ GA-P35C-S3 のみ。

** 固体キャパシタ設計を採用しているのは、GA-P35C-DS3R/DS3 だけです。

ストレージインター フェイス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ GIGABYTE SATA2 チップ^①: <ul style="list-style-type: none"> - ATA-133/100/66/33 および 2 つの IDE デバイスをサポートする IDEコネクタ (x1) - 最大 2 つの SATA 3Gb/sデバイスをサポートする SATA 3 Gb/sコネクタ (GSATAII0、GSATAII1) (x2) - SATA RAID 0、RAID 1、および JBOD のサポート ◆ JMicron 368 チップ^{②③}: <ul style="list-style-type: none"> - ATA-133/100/66/33 および 2 つの IDE デバイスをサポートする IDEコネクタ (x1)
USB	<ul style="list-style-type: none"> ◆ サウスブリッジに統合 ◆ 最大 12 の USB 2.0/1.1 ポート (背面パネルに 8 つ、内部 USB ヘッダに接続された USB ブラケットを介して 4 つ)
内部コネクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 24ピン ATX メイン電源コネクタ (x1) ◆ 4ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) ◆ フロッピーディスクドライブコネクタ (x1) ◆ IDE コネクタ (x1) ◆ SATA 3Gb/sコネクタ (x8)^① ◆ SATA 3Gb/sコネクタ (x4)^{②③} ◆ CPU ファンヘッダ (x1) ◆ システムファンヘッダ (x2) ◆ 電源ファンヘッダ (x1) ◆ 前面パネルヘッダ (x1) ◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1) ◆ CD インコネクタ (x1) ◆ S/PDIF インヘッダ (x1) ◆ S/PDIF アウトヘッダ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ヘッダ (x2) ◆ パラレルポートヘッダ (x1) ◆ シリアルポートヘッダ (x1) ◆ 電源 LED ヘッダ (x1) ◆ シャーシ侵入ヘッダ (x1)
背面パネルの コネクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PS/2キーボードポート (x1) ◆ PS/2マウスポート (x1) ◆ 同軸 S/PDIF アウトコネクタ (x1) ◆ 光 S/PDIF アウトコネクタ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ポート (x8) ◆ RJ-45 ポート (x1) ◆ オーディオジャック (x6) (センター/サブウーファスピーカーアウト/背面スピーカーアウト/側面スピーカーアウト/ラインイン/ラインアウト/マイク)
I/Oコントローラ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ iTE IT8718 チップ

① GA-P35C-DS3R のみ。

② GA-P35C-DS3 のみ。

③ GA-P35C-S3 のみ。

ハードウェアモニタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ システム電圧の検出 ◆ CPU/システム温度の検出 ◆ CPU/システム/パワーファン速度の検出 ◆ CPU過熱警告 ◆ CPU/システム/パワーファンエラー警告 ◆ CPUファン速度制御
BIOS	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 8 Mbit フラッシュ(x1) ◆ ライセンスを受けたAWARD BIOSの使用 ◆ PnP 1.0a, DMI 2.0, SM BIOS 2.3, ACPI 1.0b
固有の機能	<ul style="list-style-type: none"> ◆ @BIOS のサポート ◆ ダウンロードセンターのサポート ◆ Q-Flash のサポート ◆ EasyTune のサポート ^(注3) ◆ Xpress インストールのサポート ◆ Xpress Recovery2 のサポート ◆ 仮想デュアル BIOS のサポート
バンドルされたソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Norton インターネットセキュリティ (OEM バージョン)
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Microsoft® Windows® Vista/XP/2000 のサポート ^(注4)
フォームファクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ATXフォームファクタ、30.5cm x 24.5cm

- (注 1) Windows XP 32 ビットオペレーティングシステムの制限により、4 GB 以上の物理メモリを取り付けても、表示される実際のメモリサイズは 4 GB より少なくなります。
- (注 2) ICH9サウスブリッジで制御されるSATAコネクタのホットプラグ機能を有効にするには、Windows Vistaをインストールし(ICH9では、ホットプラグはWindows Vistaでのみサポートされます)、AHCIモードに対してSATAコネクタを設定する必要があります。(AHCIを有効にする方法の詳細については、第2章「BIOSセットアップ」、「統合周辺機器」を参照してください)。
- (注 3) 調整可能な CPU 電圧範囲は使用されている CPU によって異なります。
- (注 4) チップセットの制限により、Intel ICH9R RAID ドライバは Windows 2000 オペレーティングシステムをサポートしません。

1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け



CPUを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

- マザーボードがCPUをサポートしていることを確認してください。
(最新のCPUサポートリストについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください)。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、CPUを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CPUのピン1を探します。CPUは間違った方向には差し込むことができません。(または、CPUの両側のノッチとCPUソケットのアライメントキーを確認します)。
- CPUの表面に熱グリースを均等に薄く塗ります。
- CPUクーラーを取り付けない場合はコンピュータのパワーをオンにしないでください。CPUが損傷する原因となります。
- CPUの仕様に従って、CPUのホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

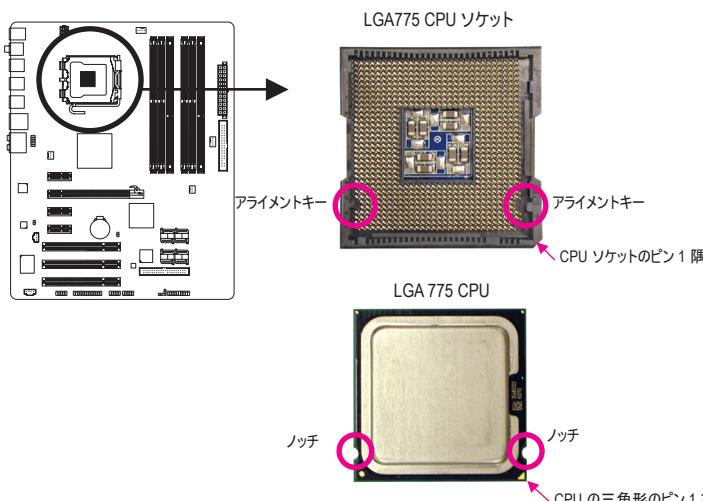


ハイパースレッディングテクノロジのシステム要件:

- (ハイパースレッディングテクノロジの詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください)
- HTテクノロジをサポートするIntel®CPU
 - HTテクノロジをサポートするチップセット
 - HTテクノロジ用に最適化されたオペレーティングシステム
 - HTテクノロジをサポートし有効にしているBIOS
(HTテクノロジを有効にする説明については、第2章「BIOSセットアップ」、「拡張BIOS機能」を参照してください)。

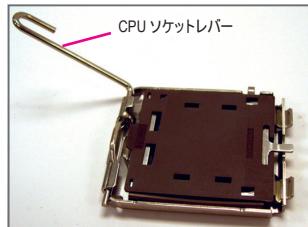
1-3-1 CPUを取り付ける

- A. マザーボードCPUソケットのアライメントキーおよびCPUのノッチを確認します。

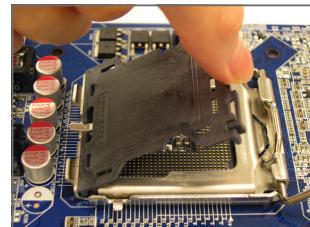


B. 以下のステップに従って、CPUをマザーボードのCPUソケットに正しく取り付けてください。

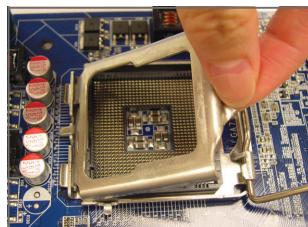
CAUTION CPUを取り付ける前に、CPUの損傷を防ぐためにコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。



ステップ1:
CPU ソケットレバーを完全に持ち上げます。



ステップ2:
保護ソケットカバーを取り外します。



ステップ3:
CPU ソケットの金属製ロードプレートを持ち上げます。



ステップ4:
CPUを親指と人差し指で抑えます。CPUピン1のマーキング(三角形)をCPUソケットのピン1隅に合わせ(または、CPUノッチをソケットアライメントキーに合わせ)、CPUを所定の位置にそっと差し込みます。



ステップ5:
CPUが正しく挿入されたら、ロードプレートを元に戻し、CPU ソケットレバーをそのロックされた位置に押し込んでください。

1-3-2 CPU クーラーを取り付ける

以下のステップに従って、CPU クーラーをマザーボードに正しく取り付けてください。(以下の手順は、サンプルのクーラーとして Intel® ポックスクーラーを使用しています)。



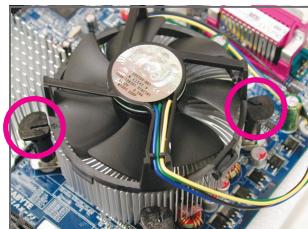
ステップ1:

取り付けたCPU の表面に熱グリースを均等に薄く塗ります。



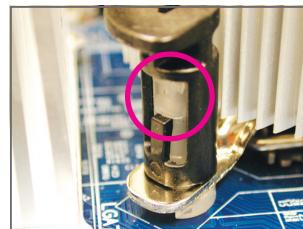
ステップ2:

クーラーを取り付ける前に、オスプッシュピンの矢印記号 の方向に注意してください。
(矢印の方向に沿ってプッシュピンを回すとクーラーが取り外され、逆の方向に回すと取り付けられます。)



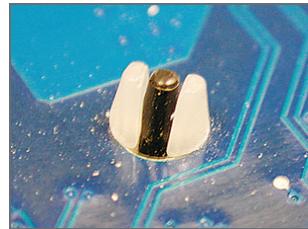
ステップ3:

クーラーをCPU の上に配置し、マザーボードのピン穴を通して4つのプッシュピンを揃えます。プッシュピンを、対角方向に押し下げてください。



ステップ4:

それぞれのプッシュピンを押し下げるごとに、「クリック音」が聞こえます。オスとメスのプッシュピンがしっかりと結合していることを確認してください(クーラーを取り付ける方法については、CPUクーラーの取り付けマニュアルを参照してください)。

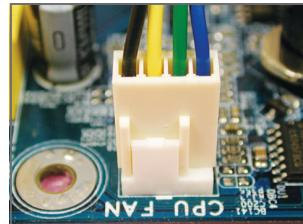


ステップ5:

インストール後、マザーボードの背面をチェックします。プッシュピンが上の図のように挿入されていれば、取り付けは完了です。



CPU クーラーと CPU の間の熱グリース/テープは CPU にしっかりと接着されているため、CPU クーラーを取り外すときは、細心の注意を払ってください。CPU クーラーを不適切に取り外すと、CPU が損傷する恐れがあります。



ステップ6:

最後に、CPU クーラーの電源コネクタをマザーボードのCPUファンヘッダ (CPU_FAN) に取り付けてください。

日本語

1-4 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:

- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。
(最新のメモリサポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください)。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは、絶対に確実な設計が施されています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。
- メモリモジュールは、絶対に確実な設計が施されています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

1-4-1 デュアルチャンネルメモリ構成

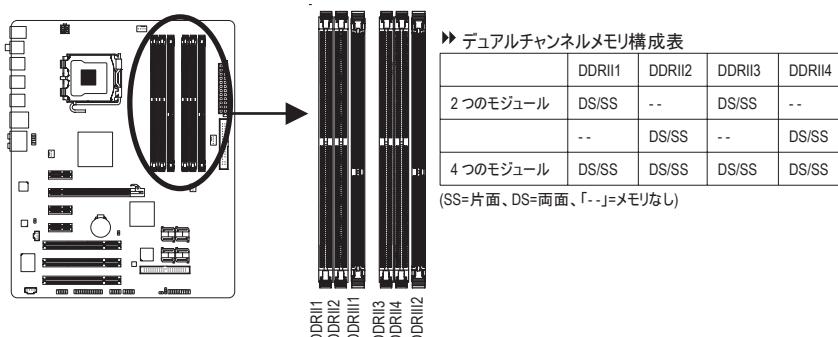
このマザーボードには、4つのDDR2メモリソケットと2つのDDR3メモリソケットが搭載されており、デュアルチャンネルテクノロジをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOSはメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードを有効にすると、元のメモリバンド幅が2倍になります。

4つのDDR2メモリソケット(DDRII1、DDRII2、DDRII3、およびDDRII4)は2つのチャンネルに分割され、それぞれのチャンネルには以下のように2つのメモリソケットが付いています:

- チャンネル 0: DDRII1, DDRII2
- チャンネル 1: DDRII3, DDRII4

2つのDDR3メモリソケット(DDRIII1、DDRIII2)は、次のように2つのチャンネルに分割されます:

- チャンネル 0: DDRIII1
- チャンネル 1: DDRIII2



DDR2 デュアルチャンネルメモリ構成:

チップセットの制限により、デュアルチャンネルモードで DDR2 メモリを取り付ける前に以下のガイドラインをお読みください。

1. DDR2メモリモジュールが1つしか取り付けられていない場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
2. 2つまたは4つのメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にするとき、最適のパフォーマンスを発揮させるには同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリを使用し、同じ色のDDR2ソケットに取り付けるようにお勧めします。



異なる容量とチップのメモリモジュールを取り付けるとき、POST 中にメモリはフレックスメモリモードで作動していますというメッセージが表示されます。Intel® フレックスメモリテクノロジでは、異なるメモリサイズを装着しながらデュアルチャンネルモード/パフォーマンスを発揮することによって、アップグレードするためのより大きな柔軟性を提供しています。

DDR3 デュアルチャネルメモリ構成:

チップセットの制限により、デュアルチャネルモードで DDR3 メモリを取り付ける前に以下のガイドラインをお読みください。

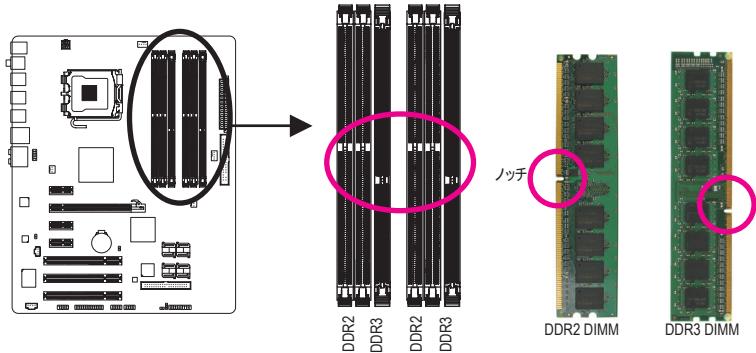
1. DDR3 メモリモジュールが1つしか取り付けられていない場合、デュアルチャネルモードは有効になりません。
2. 2つのDDR3 メモリモジュールでデュアルチャネルモードを有効にするととき、DDR3I1 と DDR3I2 ソケットにメモリを取り付けます。最適のパフォーマンスを達成するには、同じ容量、ブランド、速度のメモリをご使用になることをお勧めします。

1-4-2 メモリの取り付け

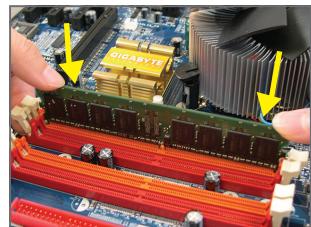


メモリモジュールを取り付ける前に、メモリモジュールの損傷を防ぐためにコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。

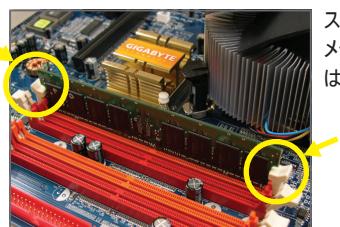
DDR2 と DDR3 DIMM はそれぞれに、または DDR DIMM と互換性がありません。このマザーボードに DDR DIMM を取り付けないでください。DDR2 と DDR3 メモリモジュールを同時に装着することはできません。



DDR2/DDR3 メモリモジュールにはノッチが付いているため、一方向にしかフィットしません。以下のステップに従って、メモリソケットにメモリモジュールを正しく取り付けてください。



ステップ1:
メモリモジュールの方向に注意します。メモリソケットの両端の保持クリップを広げます。ソケットにメモリモジュールを取り付けます。左の図に示すように、指をメモリの上に置き、メモリを押し下げ、メモリソケットに垂直に差し込みます。



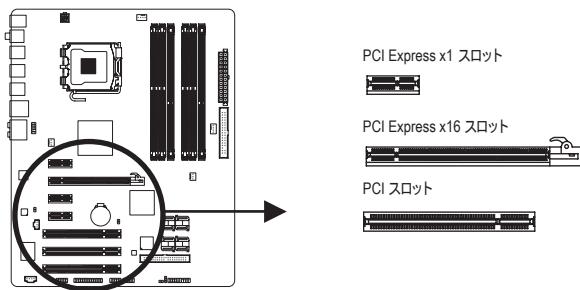
ステップ2:
メモリモジュールがしっかりと差し込まれると、ソケットの両端のチップはカチッと音を立てて所定の位置に収まります。

日本語

1-5 拡張カードの取り付け



- 拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:**
- マザーボードが拡張カードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
 - ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。



以下のステップに従って、拡張スロットに拡張カードを正しく取り付けてください。

- カードをサポートする拡張スロットを探します。シャーシの背面パネルから金属製のスロットカバーを取り外します。
- カードの位置をスロットに合わせ、スロットに完全に装着されるまでカードを下に押します。
- カードの金属の接点がスロットに完全に挿入されていることを確認します。
- カードの金属製ブラケットをねじでシャーシの背面パネルに固定します。
- すべての拡張カードを取り付けたら、シャーシカバーを元に戻します。
- コンピュータのパワーをオンにします。必要に応じて、BIOS セットアップを開き、拡張カードで要求される BIOS の変更を行ってください。
- 拡張カードに付属するドライバを、オペレーティングシステムにインストールします。

例: PCI Express x16 グラフィックスカードの取り付けと取り外し:



- グラフィックスカードの取り付け:
グラフィックスカードを PCI Express x16 スロットにそっと挿入します。白いラッチがグラフィックスカードにしっかりとロックされていることを確認します。



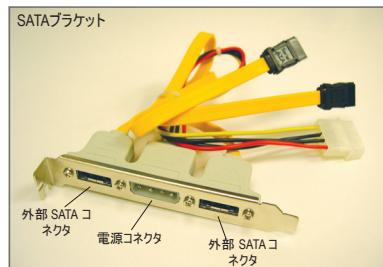
- カードを取り外す:
PCI Express x16 スロットの端の白いラッチを押してカードを取り外し、カードをスロットから垂直に引っ張り上げます。

1-6 SATA プラケットの取り付け

SATA プラケットでは、内部SATAポートをシャーシの背面パネルまで拡張することにより、外部SATAデバイスをシステムに接続できます。



- SATA プラケットとSATA電源ケーブルの取り付けや取り外しを行う前に、ハードウェアの損傷を防ぐために、システムと電源装置のパワーをオフにしてください。
- SATA信号ケーブルとSATA電源ケーブルを取り付けるとき、対応するコネクタにしっかりと差し込みます。



SATA プラケットには、SATA プラケット(x1)、SATA 信号ケーブル(x1)、およびSATA電源ケーブル(x1)が含まれています。

以下のステップに従って SATA プラケットを取り付けてください:



ステップ1:
空いている1つの PCIスロットを探し、SATA プラケットをネジでシャーシの背面パネルに固定します。



ステップ2:
プラケットのSATAケーブルをマザーボードのSATAポートに接続します。



ステップ3:
プラケットから電源装置に電源ケーブルを接続します。



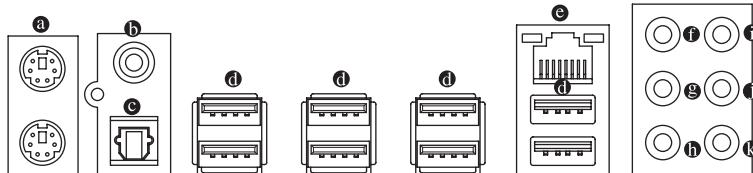
ステップ4:
SATA信号ケーブルの一方の端をプラケットの外部 SATAコネクタに差し込みます。
SATA電源ケーブルをプラケットの電源コネクタに接続します。



ステップ5:
SATA信号ケーブルとSATA電源ケーブルのもう一方の端をSATAデバイスに接続します。外部筐体のSATAデバイスの場合、SATA信号ケーブルのみを接続する必要があります。SATA信号ケーブルを接続する前に、外部筐体のパワーがオフになっていることを確認します。

日本語

1-7 背面パネルの概要



④ PS/2キーボードとPS/2マウスコネクタ

上部ポート（緑）を使用して PS/2 マウスを接続し、下部ポート（紫）を使用して PS/2 キーボードを接続します。

⑤ 同軸 S/PDIF アウトコネクタ

このコネクタは、デジタル同軸オーディオをサポートする外部オーディオシステムにデジタルオーディオアウトを提供します。この機能を使用する前に、オーディオシステムが同軸デジタルオーディオインコネクタを提供していることを確認してください。

⑥ 光 S/PDIF アウトコネクタ

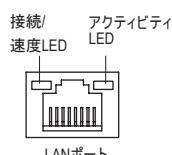
このコネクタは、デジタル光オーディオをサポートする外部オーディオシステムにデジタルオーディオアウトを提供します。この機能を使用する前に、オーディオシステムが光デジタルオーディオインコネクタを提供していることを確認してください。

⑦ USB ポート

USB ポートは USB 2.0/1.1 仕様をサポートします。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

⑧ RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED のステータスを説明しています。



接続/速度 LED:

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED

状態	説明
点滅	データの送受信中です
オフ	データを送受信していません



- 背面パネルコネクタに接続されたケーブルを取り外しているとき、まずデバイスからケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外しているとき、コネクタから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクタ内部でショートする原因となるので、横に振り動かさないでください。



① センター/サラウンドスピーカーアウトジャック（オレンジ）

このオーディオジャックを使用して、5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定のセンター/サブウーファスピーカーを接続します。

② リアスピーカーアウトジャック（黒）

このオーディオジャックを使用して、4/5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定のリアスピーカーを接続します。

③ サイドスピーカーアウトジャック（グレー）

このオーディオジャックを使用して、7.1 チャンネルオーディオ設定のサイドスピーカーを接続します。

④ ラインインジャック（青）

デフォルトのラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオジャックを使用します。

⑤ ラインアウトジャック（緑）

デフォルトのラインアウトジャックです。ヘッドフォンまたは 2 チャンネルスピーカーの場合、このオーディオジャックを使用します。このジャックを使用して、4/5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定の前面スピーカーを接続します。

⑥ マイクインジャック（ピンク）

デフォルトのマイクインジャックです。マイクは、このジャックに接続する必要があります。

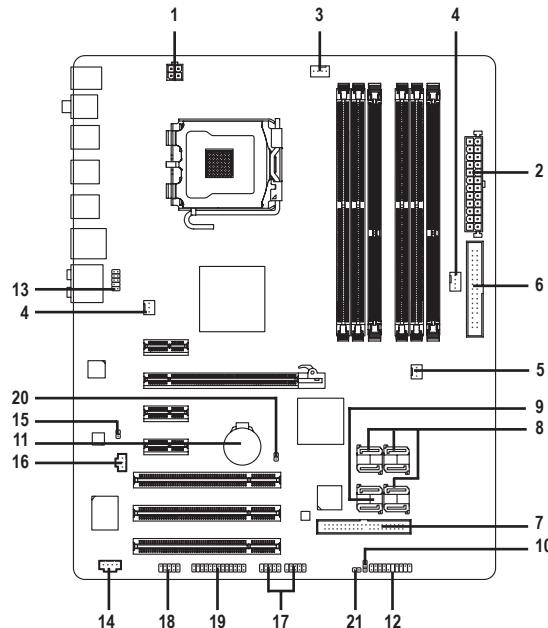


デフォルトのスピーカー設定の他に、①～⑥ オーディオジャックを設定し直してオーディオソフトウェア経由でさまざまな機能を実行することができます。マイクだけは、デフォルトのマイクインジャックに接続する必要があります（⑥）。2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定のセットアップに関する使用説明については、第 5 章、「2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオの設定」を参照してください。

日本語



1-8 内部コネクタ



1) ATX_12V	12) F_PANEL
2) ATX (電源コネクタ)	13) F_AUDIO
3) CPU_FAN	14) CD_IN
4) SYS_FAN1/SYS_FAN2	15) SPDIF_O
5) PWR_FAN	16) SPDIF_I
6) FDD	17) F_USB1/F_USB2
7) IDE1	18) COMA
8) SATAII0/1/2/③/3③/4/5	19) LPT
9) GSATAII0③/1③	20) CLR_CMOS
10) PWR_LED	21) CI
11) BAT	



外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください:

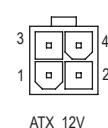
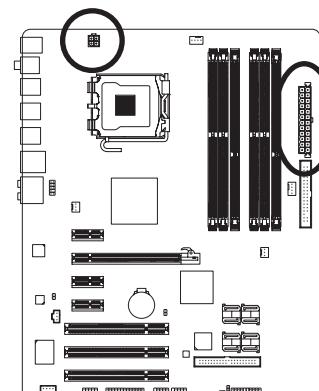
- CAUTION**
- まず、デバイスが接続するコネクタに準拠していることを確認します。
 - デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
 - デバイスをインストールした後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクタにしっかりと接続されていることを確認します。

① GA-P35C-DS3R のみ。

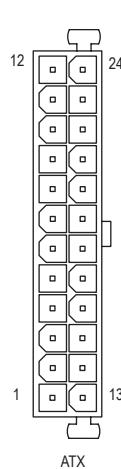
1/2) ATX_12V/ATX (2x2 12V 電源コネクタと 2x12 メインの電源コネクタ)

電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタは、絶対に確実な設計が施されています。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクタに接続します。12V 電源コネクタは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクタが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。

- 拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします(400W以上)。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。
- メインの電源コネクタは、2x10 電源コネクタを持つ電源装置と互換性があります。2x12 電源装置を使用しているとき、マザーボードのメインの電源コネクタから保護カバーを取り外します。2x10 電源装置を使用しているとき、保護カバーの下のピンに電源装置のケーブルを挿入しないでください。



ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V

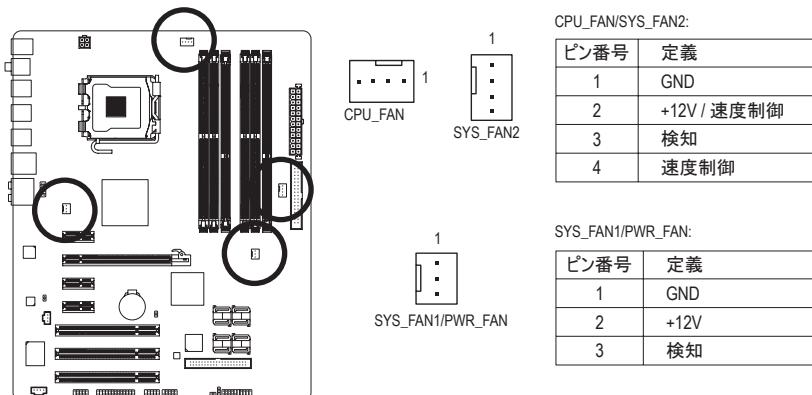


ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (ソフトオン/オフ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	パワー良し	20	-5V
9	5V SB(スタンバイ +5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

日本語

3/4/5) CPU_FAN/SYS_FAN1/SYS_FAN2/PWR_FAN (ファンヘッダ)

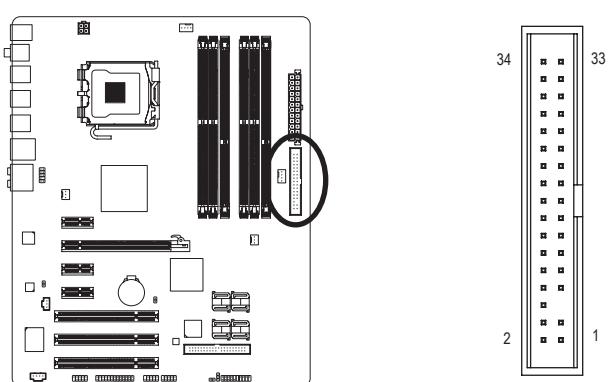
マザーボードには4ピン CPU ファンヘッダ (CPU_FAN)、3ピンシステムヘッダ (SYS_FAN1)、4ピンシステムファンヘッダ (SYS_FAN2) および3ピンパワーファンヘッダ (PWR_FAN) それぞれのファンヘッダは +12V の電源電圧を供給し、絶対に確実な挿入設計が施されています。ファンケーブルを接続しているとき、正しい方向に接続していることを確認してください。ほとんどのファンは、色分けされた電源コネクタワイヤ付きの設計です。赤い電源コネクタワイヤはプラスの接続を示し、+12V電圧を必要とします。黒いコネクタワイヤはアース線です。マザーボードは CPU ファン速度制御をサポートし、ファン速度制御設計を搭載した CPU ファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、シャーシ内部にシステムファンを取り付けるようにお勧めします。



- CAUTION**
- CPU、ノースブリッジ: およびシステムが過熱しないように、ファンケーブルをファンヘッダに必ず接続してください。過熱すると、CPU/ノースブリッジが損傷したり、またはシステムがハングアップする結果となります。
 - これらのファンヘッダは、設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンプのキャップを取り付けないでください。

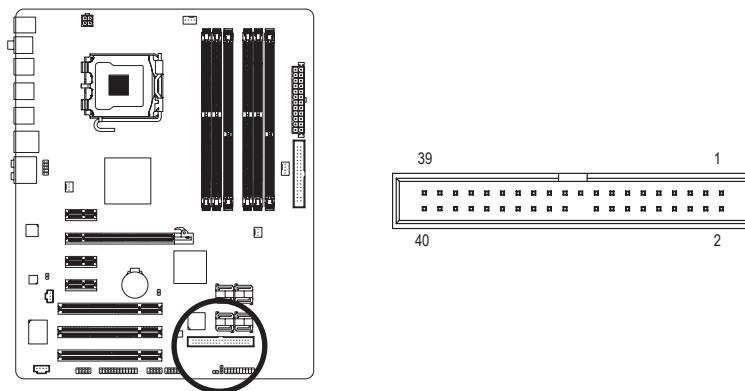
6) FDD (フロッピーディスクドライブコネクタ)

このコネクタは、フロッピーディスクドライブを接続するために使用されます。サポートされるフロッピーディスクドライブの種類は、次の通りです。360 KB、720 KB、1.2 MB、1.44 MB、および 2.88 MB。フロッピーディスクドライブを接続する前に、コネクタに絶対に確実な溝を探してください。



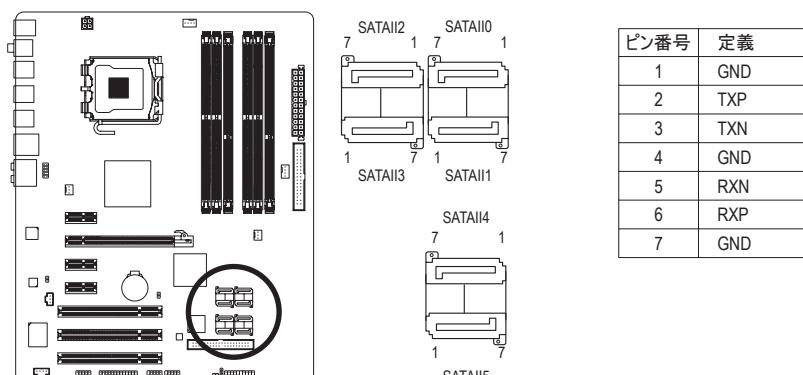
7) IDE1 (IDEコネクタ)

IDE コネクタは、ハードドライブや光ドライブなど最大 2 つの IDE デバイスをサポートします。IDE ケーブルを接続する前に、コネクタに絶対に確実な溝を探します。2 つの IDE デバイスを接続する場合、ジャンパとケーブル配線を IDE の役割に従って設定してください（たとえば、マスタまたはスレーブ）。（IDE デバイスのマスタ/スレーブ設定を実行する詳細については、デバイスマーカーの提供する使用説明書をお読みください）。



8) SATAII0/1/2/3/4/5 (SATA 3Gb/s コネクタ、ICH9R によって制御済み、橘色)^①

SATA コネクタはSATA 3Gb/s標準に準拠し、SATA 1.5Gb/s標準との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。ICH9R コントローラは RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 10 をサポートします。RAID アレイの設定の使用説明については、第 5 章「SATA ハードドライブの設定」をお読みください

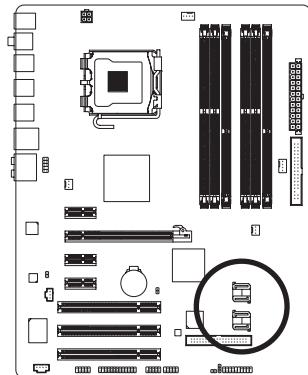


- RAID 0 または RAID 1 設定は、少なくとも 2 台のハードドライブを必要とします。2 台のハードドライブを使用する場合、ハードドライブの総数は偶数に設定する必要があります。
- RAID 5 設定は、少なくとも 3 台のハードドライブを必要とします。（ハードドライブの総数は偶数に設定する必要がありません）。
- RAID 10 設定は少なくとも 4 台のハードドライブを必要とし、ハードドライブの総数は偶数に設定する必要があります。

^① GA-P35C-DS3R のみ。

8) SATAII0/1/4/5 (SATA 3Gb/s コネクタ、ICH9 によって制御済み、橘色)^{②③}

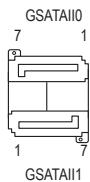
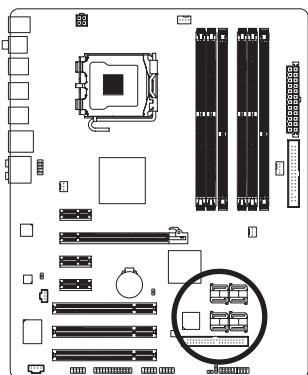
SATA コネクタはSATA 3Gb/s 標準に準拠し、SATA 1.5Gb/s 標準との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。



ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND

9) GSATAII0/1 (GIGABYTE SATA2 により制御される、SATA 3Gb/sコネクタ、紫)^①

SATA コネクタはSATA 3Gb/s 標準に準拠し、SATA 1.5Gb/s 標準との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。RAID アレイの設定の使用説明については、第 5 章「SATA ハードドライブの設定」をお読みください。



ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND

 RAID 0 または RAID 1 設定は、少なくとも 2 台のハードドライブを必要とします。2 台のハードドライブを使用する場合、ハードドライブの総数は偶数に設定する必要があります。

① GA-P35C-DS3R のみ。

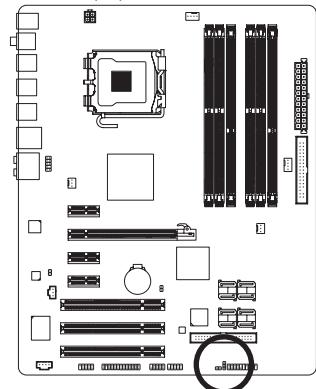
② GA-P35C-DS3 のみ。

③ GA-P35C-S3 のみ。



10) PWR_LED (システム電源 LED ヘッダ)

このヘッダはシャーシにシステムの電源 LED を接続し、システムの電源ステータスを示すために使用できます。システムが作動しているとき、LED はオンになります。システムが S1 スリープ状態に入ると、LED は点滅を続けます。システムが S3/S4 スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき (S5)、LED はオフになります。

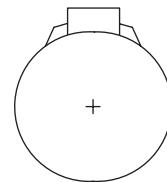
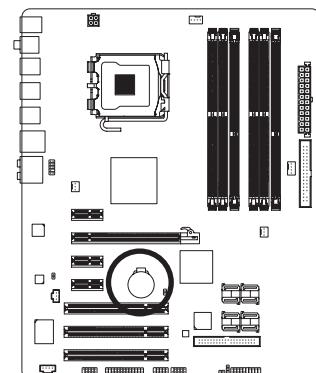


ピン番号	定義
1	MPD+
2	MPD-
3	MPD-

システムステータス	LED
S0	オン
S1	点滅
S3/S4/S5	オフ

11) BAT (バッテリ)

バッテリは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値 (BIOS 設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリの電圧が低レベルまで下がったらバッテリを交換してください。そうしないと、CMOS 値が正確に表示されなかつたり失われる可能性があります。



バッテリを取り外すと、CMOS 値を消去できます。

1. コンピュータのパワーをオフにし、パワーコードを抜きます。
2. バッテリホルダからバッテリをそっと取り外し、1 分待ちます。
(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリホルダの正および負の端子に触れ、5 秒間ショートさせます)。
3. バッテリを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。

日本語

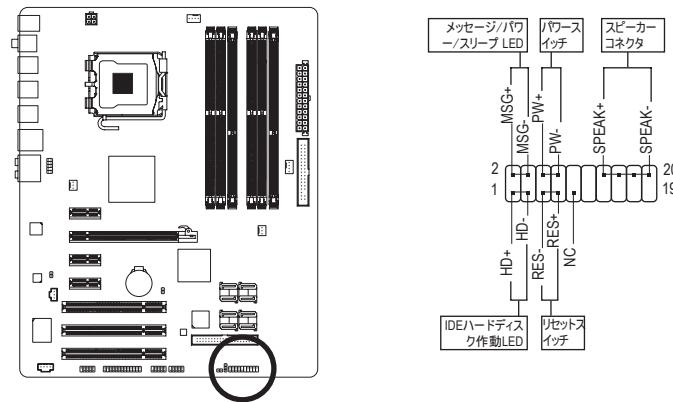


- バッテリを交換する前に、常にコンピュータのパワーをオフにしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリを同等のバッテリと交換します。バッテリを正しくないモデルと交換すると、爆発する危険があります。
- バッテリを自分自身で交換できない場合、またはバッテリのモデルがはっきり分からぬ場合、購入店または地域代理店にお問い合わせください。
- バッテリを取り付けるとき、バッテリのプラス側 (+) とマイナス側 (-) の方向に注意してください (プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みバッテリは、地域の環境規制に従って処理する必要があります。



12) F_PANEL (正面パネルヘッダ)

シャーシ前面パネルのパワースイッチ、リセットスイッチ、スピーカーおよびシステムステータスインジケータを、以下のピン配列に従ってこのヘッダに接続します。ケーブルを接続する前に、正と負のピンに注意してください。



- MSG (メッセージ/パワー/スリープ LED、黄)

システムステータス LED	
S0	オン
S1	点滅
S3/S4/S5	オフ

シャーシ前面パネルの電源ステータスインジケーターに接続します。システムが作動しているとき、LEDはオンになります。システムがS1スリープ状態に入ると、LEDは点滅を続けます。システムがS3/S4スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき(S5)、LEDはオフになります。

- PW (パワースイッチ、赤):

シャーシ前面パネルのパワースイッチに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます(詳細については、第2章、「BIOSセットアップ」。「電源管理のセットアップ」を参照してください)。

- SPEAK (スピーカー、オレンジ):

シャーシ前面パネルのスピーカーに接続します。システムは、ビープコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビープ音が1度鳴ります。問題を検出すると、BIOSは異なるパターンのビープ音を鳴らして問題を示します。ビープコードの詳細については、第5章「トラブルシューティング」を参照してください。

- HD (IDE ハードドライブアクティビティ LED、青)

シャーシ前面パネルのハードドライブアクティビティ LED に接続します。ハードドライブがデータの読み書きをおこなっているとき、LED はオンになります。

- RES (リセットスイッチ、緑):

シャーシ前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を行えない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

- NC (紫):

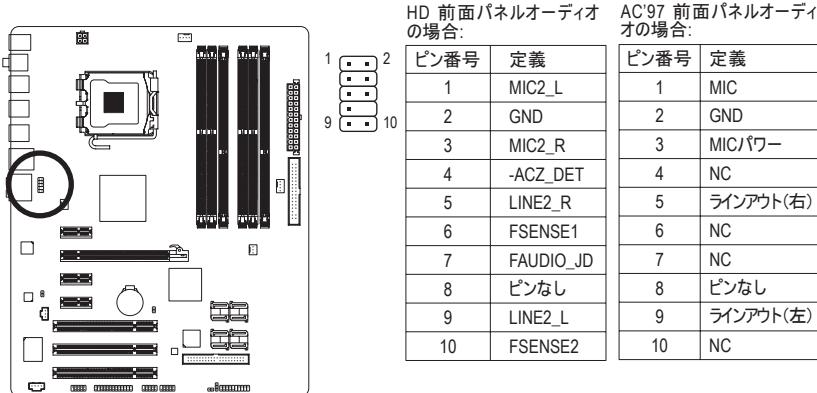
接続なし



前面パネルのデザインは、シャーシによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源 LED、ハードドライブアクティビティ LED、スピーカーなどで構成されています。シャーシ前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

13) F_AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

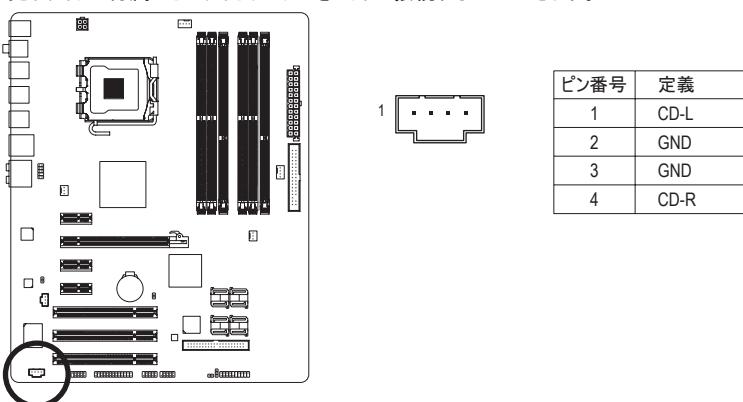
前面パネルのオーディオヘッダは、Intel ハイデフィニションオーディオ (HD) と AC'97 オーディオをサポートします。シャーシ前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクタのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することすらあります。



- 前面パネルのオーディオヘッダは、デフォルトで HD オーディオをサポートしています。シャーシに AC'97 前面パネルのオーディオモジュールが搭載されている場合、オーディオソフトウェアを介して AC'97 機能をアクティブにする方法については、第 5 章「2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオの設定」の使用説明を参照してください。
- AC'97 前面パネルのオーディオモジュールを使用しているとき、前面または背面パネルのオーディオコネクタを使用することができますが、両方のコネクタを同時に使用することはできません。
- シャーシの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一プラグの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なる前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、シャーシメーカーにお問い合わせください。

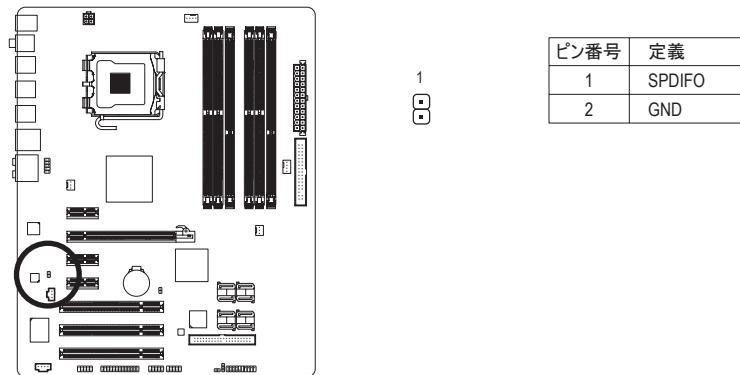
14) CD_IN (CD入力コネクタ)

光ドライブに付属のオーディオケーブルをヘッダに接続することができます。

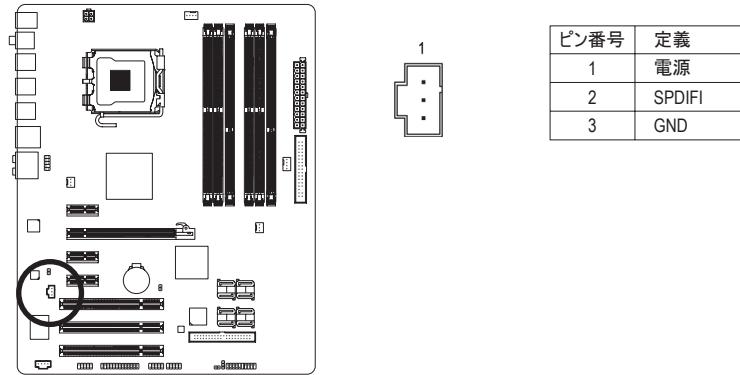


15) SPDIF_O (S/PDIFアウトヘッダ)

このヘッダはデジタルS/PDIFアウトをサポートし、デジタルオーディオ用のS/PDIFデジタルオーディオケーブル(拡張カードに付属)をマザーボードから、グラフィックスカードやサウンドカードのような特定の拡張カードに接続します。たとえば、グラフィックスカードの中には、HDMIディスプレイをグラフィックスカードに接続してHDMIディスプレイから同時にデジタルオーディオを出力する場合、マザーボードからグラフィックスカードにデジタルオーディオを出力するために、S/PDIFデジタルオーディオケーブルを使用するようになります。S/PDIFデジタルオーディオケーブルの接続に関する詳細については、拡張カードのマニュアルをよくお読みください。

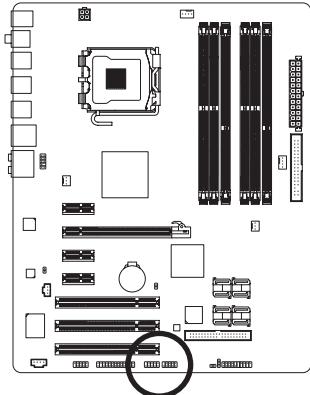
**16) SPDIF_I (S/PDIF インヘッダ)**

このヘッダはデジタル S/PDIF インをサポートし、オプションの S/PDIF インケーブルを介してデジタルオーディオアウトをサポートするオーディオデバイスに接続できます。オプションの S/PDIF インケーブルの購入については、地域の代理店にお問い合わせください。



17) F_USB1/F_USB2 (USB ヘッダ、黄)

ヘッダは USB 2.0/1.1 仕様に準拠しています。各 USB ヘッダは、オプションの USB ブラケットを介して 2 つの USB ポートを提供できます。オプションの USB ブラケットを購入する場合、地域の代理店にお問い合わせください。



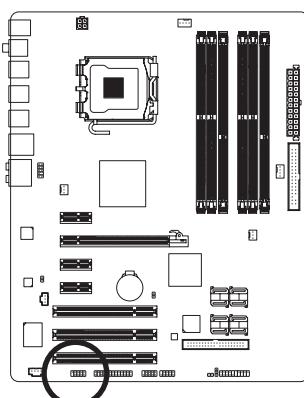
ピン番号	定義
1	電源 (5V)
2	電源 (5V)
3	USB DX-
4	USB DY-
5	USB DX+
6	USB DY+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB ヘッダに差し込まないでください。
- USB ブラケットを取り付ける前に、USB ブラケットが損傷しないように、必ずコンピュータのパワーをオフにし電源コードをコンセントから抜いてください。

18) COMA (シリアルポートコネクタ)

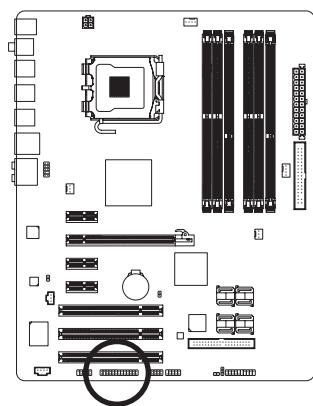
COM ヘッダは、オプションの COM ポートケーブルを介して 1 つのシリアルポートを提供します。オプションの COM ポートケーブルを購入する場合、地域の代理店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	NDCDA-
2	NSINA
3	NSOUTA
4	NDTRA-
5	GND
6	NDSRA-
7	NRTSA-
8	NCTSA-
9	NRIA-
10	ピンなし

19) LPT (パラレルポートヘッダ)

LPT ヘッダは、オプションの LPT ポートケーブルを介して 1 つのパラレルポートを提供します。オプションの LPT ポートケーブルを購入する場合、地域の代理店にお問い合わせください。



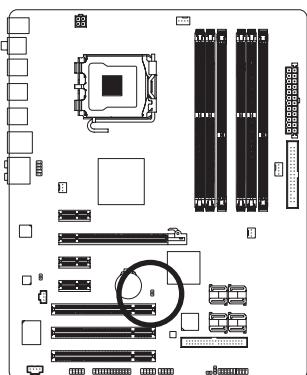
25
26

1
2

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	STB-	14	GND
2	AFD-	15	PD6
3	PD0	16	GND
4	ERR-	17	PD7
5	PD1	18	GND
6	INIT-	19	ACK-
7	PD2	20	GND
8	SLIN-	21	BUSY
9	PD3	22	GND
10	GND	23	PE
11	PD4	24	ピンなし
12	GND	25	SLCT
13	PD5	26	GND

20) CLR_CMOS (クリア CMOS ジャンパ)

このジャンパを使用して CMOS 値(例えは、日付情報や BIOS 設定)を消去し、CMOS を工場出荷時の設定にリセットします。CMOS 値を消去するには、ジャンパキャップを 2 つのピンに取り付けて 2 つのピンを一時的にショートするか、ドライバーのような金属製物体を使用して 2 つのピンに数秒間触れます。



オープン: ノーマル

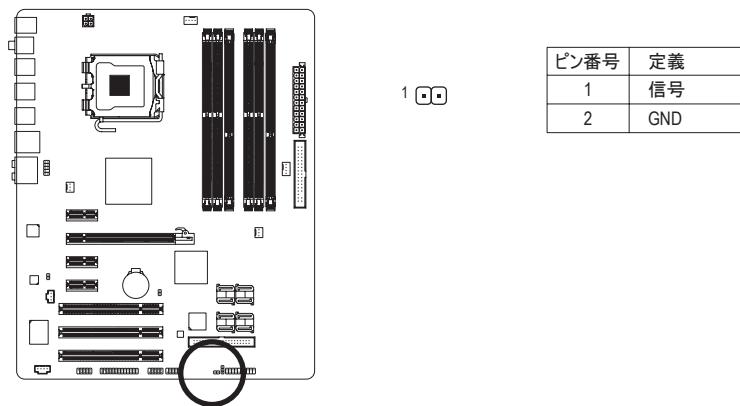
ショート: CMOS 値の消去



- CMOS 値を消去する前に、常にコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CMOS 値を消去した後コンピュータのパワーをオンにする前に、必ずジャンパからジャンパキャップを取り外してください。取り外さないと、マザーボードが損傷する原因となります。
- システムが再起動した後、BIOS セットアップに移動して工場出荷時の設定をロードするか (ロード最適化既定値を選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第 2 章、「BIOS セットアップ」を参照してください)。

21) CI (シャーシ侵入ヘッダ)

このマザーボードには、シャーシカバーが取り外された場合に検出するシャーシ検出機能が搭載されています。この機能には、シャーシ侵入検出設計を施したシャーシが必要です。



日本語

日本語